

令和 7 年10月

勝英農業普及指導センター

ぶどうせん定枝バイオ炭の活用

1 はじめに

勝央町ぶどう部会では、令和 6 年度からハイブリッド産地育成推進事業の導入にあたり、環境にやさしい農業に取り組む必要があります。そこで、バイオ炭を作製して土づくりに使用し、産地のイメージアップを目指しましょう。

まず、1 反からバイオ炭の作製に取り組んでみましょう。

2 準備

①せん定枝の結束と乾燥

しっかり結束すると運びやすい。

炭焼きの場所に集めたほうが効率的。

乾燥させた方が燃焼させやすい。



②必要な道具

炭化器、レーキ、鍬等炭を混ぜる物、焚きつけ用新聞紙薪等、水（水道、畑灌）



炭化器：鉄板 6 枚を長方形に重ね、クランプで固定。
鉄板は、厚さ 3.2mm の鉄板 45cm × 180cm 。
2 枚に 5cm 引掛け、すべての鉄板に 2 か所の
取手付き。
加工費込み約 6.2 万円（R6 時点）

③日程調整、場所の選定、消防署への届出

風の無い日に実施する。周囲に燃えやすいものが無く広い場所に炭化器を設置し、複数人で炭焼きする。

事前に消防署に届出書を提出する。

3 炭焼き

① 燃焼

焚きつけにより熾火を作ると、燃焼が早まる。



② 消火

炭が白くなり、炎が収まったら、大量の水をかける。
炭を混ぜて煙が出なくなるまで念入りに水进行かける。



③ 作業時間（設置から消火まで）

約 2 時間半

せん定枝 20 ～ 40 a 分 300 ～ 1,100 kg

④ 作れるバイオ炭の量（10 a 分のせん定枝あたり）

約 300 ㍓、40 kg（乾物重）、約 10 a 施用可能

4 バイオ炭の使用方法的目安（現在検証中）

① 品質は、pH11、EC2.5前後

② 1 樹あたり 30 ～ 40 ㍓を樹幹下散布又は土壤混和

③ 昨年から部分深耕に利用しており、現状では生育・品質に問題は無い。



5 バイオ炭使用の効果

① 土づくり資材の代替

② 環境負荷低減と二酸化炭素貯留

③ 環境にやさしい農業取組による産地ブランド向上